

# グリーンイノベーション基金事業／ 「洋上風力発電の低コスト化」プロジェクト フェーズ1-⑤ 浮体式洋上風力における共通基盤開発

## 公募説明会 説明資料

実施日：2024年10月22日（火）

国立研究開発法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構  
再生可能エネルギー部 風力・海洋ユニット

- **グリーンイノベーション基金事業の概要**
- 「洋上風力発電の低コスト化」プロジェクトの概要
- 本公募の流れ
- グリーンイノベーション基金に係る補足説明
- 提案書（事業戦略ビジョン）の作成について
- 質疑応答

# グリーンイノベーション基金事業の概要

2050年カーボンニュートラルの実現に向け、官民で野心的かつ具体的な目標を共有した上で、これに経営課題として取り組む企業等に対して、10年間、研究開発・実証から社会実装までを継続して支援する

- 産業分野毎の特性も考慮した上で、プロジェクト毎に野心的な2030年目標を設定
- グリーン成長戦略において実行計画を策定している重要分野を対象
- 研究開発成果を社会実装につなげるため独自の仕組みを導入（後述）

本事業



## エネルギー関連産業

01  
洋上風力・太陽光・地熱

02  
水素・燃料アンモニア

03  
次世代熱エネルギー

04  
原子力

## 輸送・製造関連産業

05  
自動車・蓄電池

09  
食料・農林水産業

06  
半導体・情報通信

10  
航空機

07  
船舶

11  
カーボンリサイクル  
・マテリアル

08  
物流・人流  
・土木インフラ

## 家庭・オフィス関連産業

12  
住宅・建築物  
・次世代電力マネジメント

13  
資源循環関連

14  
ライフスタイル関連

○グリーン成長戦略において実行計画を策定した重点14分野

## グリーンイノベーション基金事業の基本方針

基金事業における支援対象、成果を最大化するための仕組み及び実施体制等、各研究開発分野に共通して適用する事業実施に係る方針を定めたもの

## 研究開発・社会実装計画

基金事業で実施する各プロジェクトの2030年目標・研究開発項目・対象技術の成熟度・予算規模・スケジュール等を記載した計画書

## 公募要領

基本方針及び社会実装計画に基づき公募の対象や要件、提案方法、契約・交付に係る留意事項等を記載したもの

- グリーンイノベーション基金事業の概要
- **「洋上風力発電の低コスト化」プロジェクトの概要**
- 本公募の流れ
- グリーンイノベーション基金に係る補足説明
- 提案書（事業戦略ビジョン）の作成について
- 質疑応答

# 「洋上風力発電の低コスト化」

## 洋上風力発電の低コスト化プロジェクト（全体像）

- 今後急拡大が見込まれるアジアの市場を獲得するためには、これまでの浮体の開発・実証成果も踏まえながら、風車の大型化に対応して設備利用率を向上し、コストを低減させることが不可欠。
- そのため、
  - ・台風、落雷等の気象条件やうねり等の海象条件等のアジア市場に適合し、また日本の強みを活かせる要素技術の開発を進めつつ（フェーズ1）、
  - ・こうした要素技術も活用しつつシステム全体として関連技術を統合した実証を行う（フェーズ2）、
  - ・更に、大深度対応や大量生産等に係るコストを局限化する協調領域について、国内事業者による協調体制において、国内のみならず、2023年にLOIを締結したデンマーク等とも連携した研究開発を行う（フェーズ1⑤）。

### フェーズ1：要素技術開発

#### テーマ①：次世代風車技術開発事業（補助、5年程度）

【予算額：上限150億円→上限180億円】

- 風車仕様の台風、地震、落雷、低風速等の自然条件への最適化、日本の生産技術やロボティクス技術を活かした大型風車の高品質大量生産技術、次世代風車要素技術開発等

#### テーマ②：浮体式基礎製造・設置低コスト化技術開発事業（補助、3年程度）

【予算額：上限100億円】

- 浮体の大量生産、合成繊維と鉄のハイブリッド係留システム、共有アンカーや海中専有面積の小さいTLP係留等

#### テーマ③：洋上風力関連電気システム技術開発事業（補助、3年程度）

【予算額：上限25億円】

- 高電圧ダイナミックケーブル、浮体式洋上変電所等

#### テーマ④：洋上風力運転保守高度化事業（補助、3年程度）

【予算額：上限70億円→上限40億円】

- 洋上環境に適した修理や塗装技術、高稼働率の作業船の開発、デジタル技術による予防保全・メンテナンス高度化、ドローン等を用いた点検技術の高度化等

### フェーズ2：浮体式実証

#### フェーズ2：浮体式洋上風力実証（補助、最大8年）

【予算額：上限850億円】

風車・浮体・ケーブル・係留等の一体設計を行い、最速2023年度から事業に着手

#### フェーズ1テーマ⑤：共通基盤技術開発（補助、最大8年）

浮体システムの最適な設計規準・規格化、浮体基礎の大量・高速製造技術の開発、大水深に対応する係留や電気システム等

フェーズ1の成果（先端技術）を活用した案件は、高い補助率を適用

商用化・社会実装

本公募

# 「洋上風力発電の低コスト化」

- 具体的なスケジュールは提案者の創意工夫に委ねることを原則とするが、想定される実施スケジュールは以下のとおり。また、ステージゲートを設定し、事業進捗を見て、継続可否を判断。
- フェーズ1は、各要素技術開発について着実に実施するとともに、国内外でのエネルギー政策に関する動向を踏まえて、①風車、④メンテナンスに係る要素技術開発を加速する。
- さらに⑤国内企業を中心とした協調体制を構築し、先行する海外勢とも連携しつつ、グローバル市場も意識した国際標準等の実現に向けた技術開発を実施する。
- フェーズ2は、風車、浮体、電気システム、係留等の挙動・性能・施工性・コストを考慮した一体設計技術を確立し、浮体式洋上風力発電を国際競争力がある価格での商用化に繋げる。

|                                        | 2021年度                                                                                                                      | 2022年度 | 2023年度 | 2024年度 | 2025年度 | 2026年度 | 2027年度 | 2028年度 | 2029年度 | 2030年度 |
|----------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 【フェーズ1-①】<br>次世代風車技術開発事業               | 1) 風車仕様最適化<br>2) 風車の高品質大量生産技術<br>3) 浮体搭載風車の最適設計<br>4) 次世代風車要素技術開発<br>5) 低風速域向けブレード                                          |        |        |        |        |        |        |        |        |        |
| 【フェーズ1-②】<br>浮体式基礎製造・設置<br>低コスト化技術開発事業 | 1) 浮体基礎の最適化<br>2) 浮体の量産化<br>3) 係留システムの最適化<br>4) ハイブリッド係留システム<br>5) 低コスト施工技術の開発                                              |        |        |        |        |        |        |        |        |        |
| 【フェーズ1-③】<br>洋上風力関連電気<br>システム技術開発事業    | 1) 高電圧ダイナミックケーブル<br>2) 浮体式洋上変電所                                                                                             |        |        |        |        |        |        |        |        |        |
| 【フェーズ1-④】<br>洋上風力運転保守<br>高度化事業         | 1) 運転保守及び修理技術の開発<br>2) デジタル技術による予防保全・メンテナンス高度化<br>3) 監視及び点検技術の高度化<br>4) 障害故障自動診断システムの開発                                     |        |        |        |        |        |        |        |        |        |
| 【フェーズ1-⑤】<br>浮体式洋上風力における<br>共通基盤開発     | 1) 浮体システムの最適な設計基準・規格化等開発<br>2) 浮体システムの大量/高速生産等技術開発<br>3) 大水深における係留・アンカー施工等技術開発<br>4) 大水深に対応する送電技術の開発<br>5) 遠洋における風況観測手法等の開発 |        |        |        |        |        |        |        |        |        |
| 【フェーズ2】<br>浮体式洋上風力実証<br>事業             | <b>【実証フェーズ】</b><br>1) 浮体、風車、係留システム、ケーブル等の一体設計                                                                               |        |        |        |        |        |        |        |        |        |

本公募

## ● 目標

- 2030年までに、一定条件下（風況等）で、**浮体式洋上風力を国際競争力のある水準で商用化する技術を確立する。**

## ● 研究開発内容

- 各研究開発で得られた知見を、実施者間において共有・連携することで、社会実装に繋がる確度が高まることが期待される。同時に、**実施者同士が連携し、研究成果が実施者間で共有できる体制**で取り組むことを求める。また、コスト削減等の目標を達成するべく、各研究開発等について、**フェーズ2（浮体式実証）との連携も視野**に実施していくとともに、本研究開発の成果として、例えば一連の工程におけるコストやタクトタイムの改善効果等や国際標準化への進捗等を示すものとする。

- ①浮体システムの最適な設計基準・規格化等開発
- ②浮体システムの大量/高速生産等技術開発
- ③大水深における係留・アンカー施工等技術開発
- ④大水深に対応する送電技術の開発
- ⑤遠洋における風況観測手法等の開発

- 補助率：（2/3補助）＋（インセンティブ1/10）

- 本事業は補助率 2/3＋（インセンティブ1/10）とします。

- 実施スケジュール

- 2024 年度から 2030 年度までの最大7年間を想定する。ただし、事業者の提案において、早期の目標達成のために最適なスケジュールを組むことは妨げない。

- 予算

- NEDO負担予算 40億円（総額） \* インセンティブを含む

- 実施形態

- フェーズ 1－⑤については共通基盤開発の主旨に鑑み研究開発項目①～⑤の全体提案を原則とする。いて、早期の目標達成のために最適なスケジュールを組むことは妨げない。

## ● 毎年度

- 経済産業省産業構造審議会グリーンイノベーションプロジェクト部会（以下「部会」という。）のグリーン電力の普及促進等分野ワーキンググループ（以下「WG」という。）への出席、マネジメントシートの提出（8.留意事項（１）・毎年度のWGへの出席を参照。）
- なお、WGにおいて経営者のコミットメントを含めた事業推進体制が不十分であると判断され改善が見られない場合はプロジェクト中止の場合がある。（詳細は8.留意事項（１）・取組状況が不十分な場合のプロジェクト中止・国費負担額の一部返還を参照。）
- 技術・社会実装推進委員会への出席（各プロジェクト担当者から技術面・事業面での進捗報告。）

- グリーンイノベーション基金事業の概要
- 「洋上風力発電の低コスト化」プロジェクトの概要
- **本公募の流れ**
- グリーンイノベーション基金に係る補足説明
- 提案書（事業戦略ビジョン）の作成について
- 質疑応答

- 応募資格のある提案者は、次の( i )～( iii )までの条件、「研究開発・社会実装計画」に示された条件を満たす、単独又は複数で交付を希望する企業等とします。
- i. 2050年までのカーボンニュートラルの実現に向けて研究開発の成果を着実に社会実装へつなげられるよう、企業等の経営者（原則、代表取締役、代表執行役その他代表権を有する者）が長期的な経営課題として取り組むことへのコミットメントを明らかにした、長期的な事業戦略ビジョンを提出すること。
- ii. プロジェクトの実施場所及びプロジェクト後の成果活用場所に国内を含むこと。我が国の産業競争力強化の観点から、我が国技術の国際競争力や海外における類似の研究開発動向を分析した上で、国内経済への波及効果が期待される場合には、海外の先端技術の取り込みや国際共同研究・実証を実施することは可能。
- iii. プロジェクトの主たる実施者が、企業等、収益事業の担い手であること。（企業等の支出が過半を占める必要がある。）

# 提出期限及び提出先

**提出期限：2024年12月2日（月）正午アップロード完了**

## 提出書類

- ①事業戦略ビジョン（別添1）
- ②積算用総括表（別紙1）
- ③研究開発責任者及びチームリーダーの研究等経歴書（別添2）
- ④e-Rad応募内容提案書
- ⑤その他の研究費の応募・受入状況（詳細は別添3）
- ⑥ワーク・ライフ・バランス等推進企業に関する認定等の状況（詳細は別添4）
- ⑦事業開始年度の賃金を引き上げる旨の表明資料（詳細は別添5）
- ⑧GXリーグへの加入状況または温室効果ガス排出削減のための取組状況（詳細は別添6）
- ⑨関連書類(以下の書類は、webアドレスで公開していれば、URLの記載で代替可。)

会社案内（会社経歴、事業部、研究所等の組織等に関する説明書）、直近の事業報告書、財務諸表（原則、円単位：貸借対照表、損益計算書（製造原価報告書、販売費及び一般管理費明細書を含む）等）（3年分）（審査の過程で、必要に応じて財務に関する追加資料の提出を求める場合があります。）

**提出先：Web入力フォーム**

<https://app23.infoc.nedo.go.jp/koubo/qa/enquetes/tcbg0gcpi4l6>

## Web入力フォーム ⑱提出書類（提案書）

- ①事業戦略ビジョン（別添1）
  - ②積算用総括表（別紙1）
  - ③研究開発責任者及びチームリーダーの研究等経歴書（別添2）
- 一つのPDF形式のファイルにまとめてアップロードしてください。

## Web入力フォーム ⑳提出書類（その他）

- ②積算用総括表（別紙1）
  - ④e-Rad応募内容提案書
  - ⑤その他の研究費の応募・受入状況（別添3）
  - ⑥ワーク・ライフ・バランス等推進企業に関する認定等の状況（別添4）
  - ⑦事業開始年度の賃金を引き上げる旨の表明資料（別添5）
  - ⑧GXリーグへの加入状況または温室効果ガス排出削減のための取組状況
  - ⑨関連書類のPDFファイル
- 一つのzipファイルにまとめてアップロードしてください。

なお、アップロードするファイル（PDF、zip等）にはパスワードは付けないでください。

## ● 審査の方法について

- 外部有識者による採択審査委員会とNEDO内の契約・助成審査委員会で審査します。採択審査委員会は、書面審査、面接審査により実施します。
- 書面審査は、NEDOに設置する技術・社会実装推進委員会の技術面及び事業面の審査、並びにWG委員による経営者のコミットメントの確認により実施します。
- 面接審査は、技術面、事業面のプレゼンテーション審査を実施します。面接審査には、提案する企業等の担当役員（取締役、執行役に加え、いわゆる執行役員等も含む。）以上の参加を求めます。
- 契約・助成審査委員会の審議では、技術・社会実装推進委員会による書面審査、面接審査及びWG委員による書面審査の結果等に基づく採択候補が、NEDOが定める基準等に適合することを確認し、最終的に実施者を決定します。必要に応じて資料の追加等をお願いする場合があります。
- なお、交付先の選定は非公開で行われ、審査の経過等、審査に関する問い合わせには応じられませんので予めご了承ください。

## ● 採択審査の基準

- i. 研究開発計画について（技術面）
- ii. 事業戦略・事業計画について（事業面）
- iii. イノベーション推進体制について（経営面）
- iv. その他

→詳細は公募要領をご確認ください。

- |       |          |                      |
|-------|----------|----------------------|
| 2024年 | 10月15日   | : 公募開始               |
|       | 10月22日   | : 公募説明会（オンライン）       |
|       | 12月 2日正午 | : 公募締切               |
|       | 12月下旬    | : 技術・社会実装推進委員会（面接審査） |
| 2025年 | 1月中旬（予定） | : 契約・助成審査委員会         |
|       | 1月下旬（予定） | : 交付先決定              |
|       | 2月上旬（予定） | : 公表（プレスリリース）        |
|       | 3月ごろ（予定） | : 交付（事業開始）           |

- 本プロジェクトの内容及び交付に関する質問等は本説明会の最後に受け付けます。それ以降のお問い合わせは、**2024年11月22日（金）の間に限り、以下の問い合わせ先にE-mailで受け付けます。**ただし審査の経過等に関するお問い合わせには応じられません。

## **(1) 公募の内容及び契約・交付に関する問い合わせ（(2)に関するものは除く）**

国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構

再生可能エネルギー部 依田、三枝、米倉

E-mail : gi-wind@nedo.go.jp

## **(2) 研究開発・社会実装計画の内容に関する問い合わせ**

経済産業省 資源エネルギー庁 省エネルギー・新エネルギー部

新エネルギー課 風力政策室 小林、長谷川

Tel : 03-3501-6623

- グリーンイノベーション基金事業の概要
- 「洋上風力発電の低コスト化」プロジェクトの概要
- 本公募の流れ
- **グリーンイノベーション基金に係る補足説明**
- 提案書（事業戦略ビジョン）の作成について
- 質疑応答

## ◆ 毎年度のWGへの出席

「主要な企業等の経営者（※1）」は毎年度WGへ出席し、事業戦略ビジョンに基づき取組状況等を説明していただきます。

### **（※1） 主要な企業等の経営者**

#### ① WGへの経営者の出席を求める「主要企業」の範囲

国費負担額がプロジェクト内で最大の実施主体（大学や公的研究機関等を除く、実施主体がコンソーシアムの場合は幹事会社）、及び国費負担額がプロジェクト全体の10%以上かつ上位3社程度の主要企業等（コンソーシアム単位ではなく企業等の単位）

#### ② 企業経営者について

原則、代表取締役、代表執行役その他代表権を有するもの。ただし、やむを得ず企業経営者本人の出席が困難であるとWGが認める場合に限り、企業経営者本人から委任を受けた代表権の無い取締役又は執行役の出席も可能。

## ◆ 毎年度のマネジメントシート提出

- プロジェクトに参加する（主要企業以外も含めた）**全ての企業等**は、提出した事業戦略ビジョンに基づく経営のコミットメント状況を示すため、毎年度、以下の項目等に関する取組状況を記載したマネジメントシートを提出いただきます。マネジメントシートは、WGに共有され、企業等が希望する情報を非開示とした（又は修正した）上で公開する予定です。
- 助成先からの委託先等はマネジメントシートの提出は不要です。

- ① 経営者自身の関与（プロジェクトへの指示、報酬評価項目への反映等）
- ② 経営戦略への位置づけ（取締役会での決議、IR資料・統合報告書への記載等）
- ③ 事業推進体制の確保（経営資源の投入状況、専門部署の設置等）

## ◆ 取組状況が不十分な場合のプロジェクト中止・国費負担額の一部返還 (※ (助成先からの) 委託先等は適用外)

- WGが、経営者のコミットメントを含めた事業推進体制が不十分である（例えば、WGへの参加要請の拒否、マネジメントシートの未記入・未公表、目標達成に必要な事業推進体制が未整備等）と判断した場合に、実施者に対して改善点を指摘します。補助事業の場合、改善点の指摘後、改善が見られるまで補助金を支払いません。
- 改善点が指摘された事業年度の翌事業年度においても、十分な対応が見られない場合には、WG は、事業の中止に係る意見を決議し、部会において中止の最終決定を行います。その場合、事業を中止した年度の補助金は支払いの対象となりません。

### ◆ 目標達成度等に応じた国費負担割合の変動

(※ (助成先からの) 委託先等は適用外)

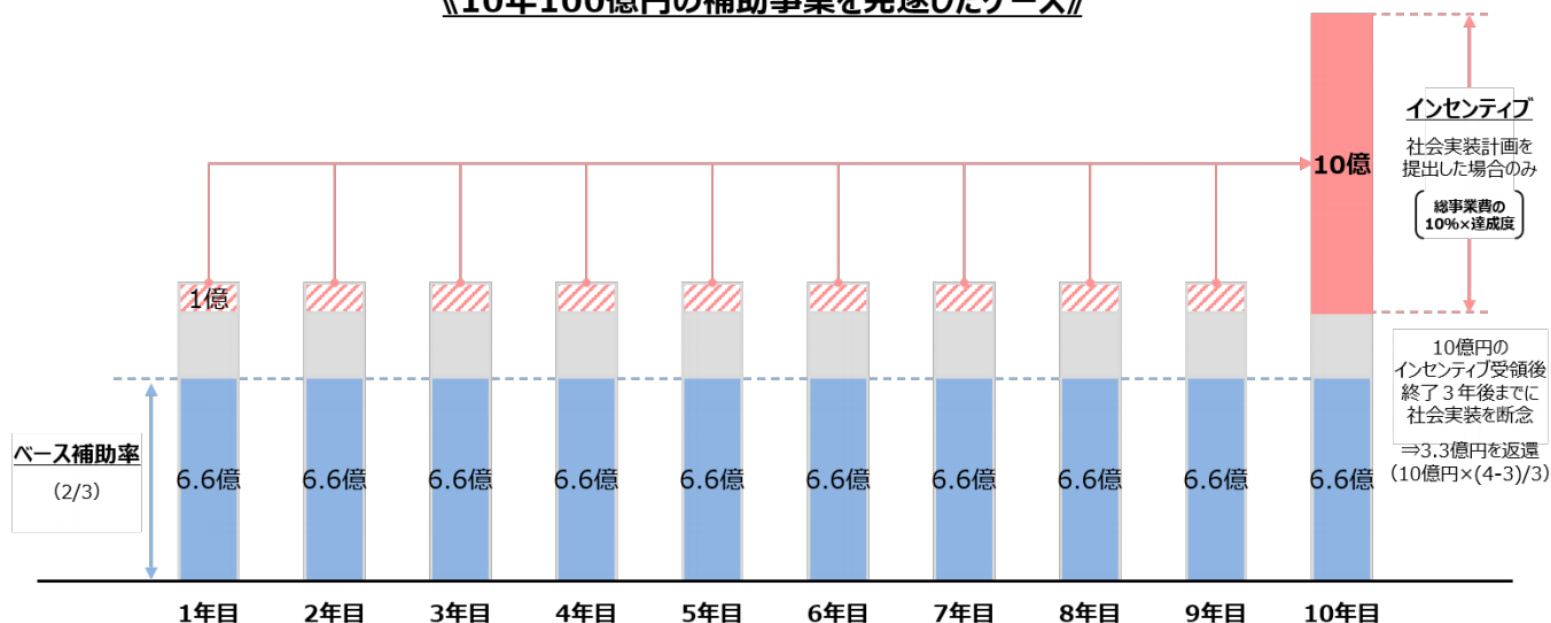
- 野心的な研究開発・社会実装の継続に対するコミットメントを高める観点から、原則、プロジェクト終了時点における2030年目標の達成度を国費負担額に連動させ、**成果報酬のようなインセンティブ措置を講じます**。企業等には、プロジェクト終了時点で、目標の達成状況や、事業戦略ビジョンにある1. 事業戦略・事業計画に準ずる内容に加え、社会実装に向けて取り組む指標（毎年度の売上高、継続投資額、知財活用数、資金調達額等）を含む**社会実装計画を提出**いただきます。
- **NEDOによる社会実装計画の審査やWGでの議論等踏まえ、その妥当性が認められる場合に、【（総事業費）×（インセンティブ率）×（目標の達成度）】（＝インセンティブ額）の金額を付与**します。（インセンティブ率を除いた助成金はプロジェクト途中で支払います。インセンティブ率は研究開発・社会実装計画を参照ください。）

## ◆ 目標達成度等に応じた国費負担割合の変動

(※ (助成先からの) 委託先等は適用外)

- インセンティブ助成において、プロジェクト終了後3年間、毎年度のNEDOのフォローアップにおいて、企業等は、**社会実装計画の指標が未達である場合に、【(インセンティブ額) × (4 - 確認時点のプロジェクト終了後年数 (1～3年)) / 3】の金額を返還**いただきます。

《10年100億円の補助事業を完遂したケース》



- グリーンイノベーション基金事業費助成金交付規程に基づく交付決定を行います。
- 事務処理については、グリーンイノベーション基金事業に係る事務処理補足マニュアル（委託、助成共通）も併せてご参照ください。  
<https://www.nedo.go.jp/content/100937218.pdf>

## ① 資産の帰属

- 取得資産の帰属は、事業者になりますが、助成金執行の適正化の観点から、助成事業で取得した機械装置等の取得財産には処分制限があります。

（交付規程第16条第1項）

## ② 財産の処分制限

- 助成金の交付の目的に反して使用し、譲渡し、交換し、貸し付け、または担保に供しようとする場合には、あらかじめNEDOの承認を受けていただく必要があります。

（交付規程第16条第3項）

- NEDOが承認を行う場合は、原則として、当該財産の残存簿価相当額に助成割合を乗じた金額をNEDOへ納付することが条件となります。（交付規程第15条第3項）

- グリーンイノベーション基金事業の概要
- 「洋上風力発電の低コスト化」プロジェクトの概要
- 本公募の流れ
- グリーンイノベーション基金に係る補足説明
- **提案書（事業戦略ビジョン）の作成について**
- 質疑応答

## ＜基本的事項＞

- 本基金事業では、「事業戦略ビジョン」がいわゆる提案書に当たります。
- フォーマットはあくまで例示であり、資料の体裁・分量を変えることは自由ですが、**各ページの記載ガイド（青色のボックス）について十分な言及がない場合は、審査において十分に評価されない可能性があります。**

※各ページの記載ガイド（青色のボックス）は提出時に削除して下さい。

- 事実・データ等の記載は、出典を明記して下さい。
- 必要に応じて、参考資料（自由様式）を挿入して下さい。

## ＜提案情報の扱い＞

- 本事業戦略ビジョンのうち**非開示を希望する情報・スライドはその旨を明記**下さい。非開示情報と認められる情報は、NEDOや担当省庁の担当者及び審査委員以外には提供しないものとし、本基金事業以外の目的に使用しません。
- 上記の非開示とした情報を除いた上で、**NEDO・GIウェブサイト**に採択者の「**事業戦略ビジョン**」を公開します。
- 本事業戦略ビジョンは事業実施期間中、定期的に（年に1度を想定）更新の上、随時公開いただきます。

## <コンソーシアムによる提案の場合>

- 事業戦略ビジョン（別紙1「積算用総括表」含む）は**事業者ごとに作成**してください。なお、どの者が作成したものか分かるよう、事業戦略ビジョン表紙の提案者名・代表名には作成者に関する情報を記載して下さい。
- 別紙1「積算用総括表」のうち、「①全期間総括表」については、各者共通の内容を記載して下さい。
- 提案に当たっては、**コンソーシアム全体を統括する幹事企業**を決めて下さい。
- 助成事業者からの委託先は「事業戦略ビジョン」の提出は不要です。（ただし、別紙1「積算用総括表」は委託先等まで含めて作成が必要です。）

## 事業戦略ビジョン

提案プロジェクト名：〇〇〇

提案者名：A社（幹事企業）、代表名：代表取締役社長 aa aa

（共同提案者（委託先除く）：B社）

※コンソーシアム等による共同実施の場合には、幹事企業を明記して下さい。

赤枠内には「作成者に関する情報」を記載してください。

例）A社（幹事企業）、B社、C社のコンソーシアムによる提案において、B社が作成する事業戦略ビジョンの表紙は以下のとおりになります。

提案者名：B社、代表者名：代表取締役社長 bb bb  
（共同提案者：A社（幹事企業）、C社）

### <注意事項>

- 本資料に記載している項目に必要情報を入力し、「事業戦略ビジョン」を作成してください。これが、いわゆる提案書に当たります。
- フォーマットはあくまで例示であり、資料の体裁・分量を変えること（既存の中期経営計画・経営ビジョン等の引用・挿入等を含む）は自由ですが、各ページの記載ガイド（青色のボックス）について十分な言及がない場合は、審査において十分に評価されない可能性があります。なお、事実・データ等の記載は、その出典を明記して下さい。
- 各ページの記載ガイド（青色のボックス）は提出時に削除して下さい。
- 必要に応じて、参考資料（自由様式）を挿入して下さい。

# 1) 1.事業戦略・事業計画/(5)事業計画の全体像の記載について

事業戦略ビジョンフォーマット p10 ( 1.事業戦略・事業計画)

- 本プロジェクトと無関係な事業・研究開発については、本ビジョンに記載いただく必要はありません。
- 但し、「会社全体の売上高研究開発費比率」については 当該事業以外も含む、会社全体の研究開発費／会社全体の売上高より算出してください。

## 1. 事業戦略・事業計画／（５）事業計画の全体像

〇〇年間の研究開発の後、XX年頃の事業化、YY年頃の投資回収を想定

### 投資計画

- 研究開発の不確実性を前提とした上で、一定の仮定に基づき、2035年頃までの長期的な事業スケジュールの概要を記載
- 提案時点での数字や内容は必ずしも正確である必要はなく、研究開発成果を用いた製品・サービス等の事業化、収益化・事業成長の見通し・スケジュール（当初計画）を確認するもの
- 今後、分野別ワーキンググループにおけるモニタリングにおいて、当該情報をアップデートした上で、定期的に確認を行う予定

| 直近の決算情報              | 研究開発      |         |     |       | 事業化 |      |     | 投資回収  |               | 計画の考え方・取組スケジュール等 |                                                       |
|----------------------|-----------|---------|-----|-------|-----|------|-----|-------|---------------|------------------|-------------------------------------------------------|
|                      | N0年度      | N1年度    | ... | N10年度 | ... | NX年度 | ... | N15年度 | N15年度<br>まで合計 |                  | NX年度                                                  |
| 売上高                  | -         | -       | ... | -     | ... | XX円  | ... | XX円   | XX円           | XX円              | ・NX年には、まずはXX市場での導入を図り、NY年度にはXX件程度、NZ年度にはXX件程度の販売実績を想定 |
| 原価                   | -         | -       | ... | -     | ... | XX円  | ... | XX円   | XX円           | XX円              | ・XXX                                                  |
| 研究開発費                | XX円       | XX円     | ... | XX円   | ... | -    | ... | -     | XX円           | XX円              | ・NX年頃から最大需要家との共同開発開始を想定                               |
| 設備投資費                | XX円       | XX円     | ... | XX円   | ... | XX円  | ... | XX円   | XX円           | XX円              | ・XXX                                                  |
| 販売管理費                | XX円       | XX円     | ... | XX円   | ... | XX円  | ... | XX円   | XX円           | XX円              | ・NX年頃にはサンプル製品提供により顧客ニーズを確認                            |
| 営業利益                 | XX円       | XX円     | ... | XX円   | ... | XX円  | ... | XX円   | XX円           | XX円              | ・XXX                                                  |
| 取組の段階                | 事業化可能性の検証 | 研究開発の開始 | ... | XXX   | ... | 事業化  | ... | XXX   | XXX           | 投資回収             | ・XXX                                                  |
| 会社全体の売上高研究開発費比率      | X%        | X%      | ... | X%    | ... | X%   | ... | X%    | XXX           | X%               | ・XXX                                                  |
| CO <sub>2</sub> 削減効果 | -         | -       | ... | -     | ... | XXトン | ... | XXトン  | XXトン          | XXトン             | ・XXX                                                  |

研究開発・社会実装計画の目標の内、アウトカムにあるCO<sub>2</sub>削減効果の算定の考え方と整合するよう算出すること

NX年度までの費用対効果  
総投資額 ○億円 ≤ 総収益額 ○億円

### 3) 2.研究開発計画の記載にかかる留意事項について

- アウトプット目標を達成するために解決すべき課題や方法を整理して記載してください。また、これらが他の研究等と比較して新規性があり、技術的に優れていることを図表等で表現し、分かりやすく記載してください。
- 現状の技術課題、その課題を解決する当該技術における独自性・新規性・優位性・実現可能性・残された技術課題に関する解決の見通し等について言及ください。
- なお、複数企業等の連名提案の場合は、各機関の役割分担と必要性を明確にするとともに、どのように連携・協調しながら課題を解決するかを説明してください。

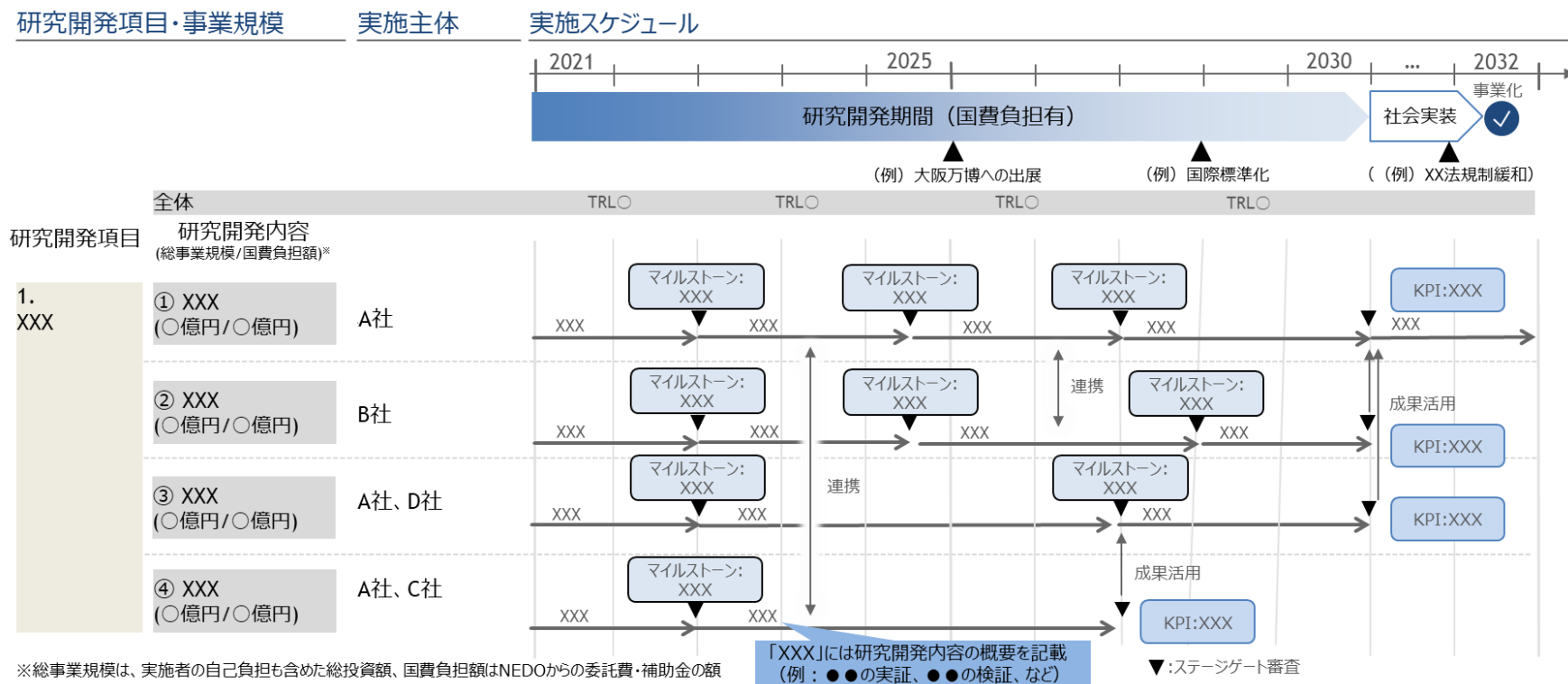
## 5) 2.研究開発計画/(3)実施スケジュール

事業戦略ビジョンフォーマット p19 ( 2.研究開発計画/(3)実施スケジュール)

### 2. 研究開発計画 / (3) 実施スケジュール

#### 複数の研究開発を効率的に連携させるためのスケジュールを計画

- 研究開発・社会実装計画に記載した想定スケジュールを参考にして、研究開発項目・内容ごとの実施スケジュールを記載
- 前述のKPI達成状況を示す途中段階のマイルストーン、相互の取組の関係性、ステージゲート審査の希望タイミング等を記載  
(採択後、実際のマイルストーン、ステージゲートのタイミング、KPI、各ステージの補助率等を調整する場合あり)
- 国による支援期間のみならず、プロジェクト終了後の社会実装に向けた取組スケジュール (必要な支援策・制度整備等) も記載



- グリーンイノベーション基金事業の概要
- 「洋上風力発電の低コスト化」プロジェクトの概要
- 本公募の流れ
- グリーンイノベーション基金に係る補足説明
- 提案書（事業戦略ビジョン）の作成について
- **質疑応答**

# グリーンイノベーション基金事業／ 「洋上風力発電の低コスト化」プロジェクト フェーズ1-⑤ 浮体式洋上風力における共通基盤開発

## 質疑応答

- ご質問は「質問内容」をチャットでご入力ください。
- 事務局から順次回答いたします。
- 本日全ての質問を回答できない場合は、後日公募ページにて回答をさせていただきます。
- なお、チャットは本説明会の参加者全員が閲覧可能です。
- 本説明会以降のお問い合わせは、メールでお問い合わせください。

**ご応募、お待ちしております。**